

女性の活躍促進のためのアンケート

【回答者ご自身のことについてお伺いします。】

所属： ()区役所 ・ ()局・室

※アンケートのご回答は、各設問で指定があるもの以外は、該当するものに○をつけてください。

《全員の方に、回答者の属性について伺います。(回答日現在の状況についてお答えください)

問1:性別はどちらですか？

1. 男性
2. 女性

問2:年齢は何歳ですか(回答日現在の満年齢)

1. 24歳以下
2. 25歳～29歳
3. 30歳～34歳
4. 35歳～39歳
5. 40歳～44歳
6. 45歳～49歳
7. 50歳～54歳
8. 55歳～59歳
9. 60歳以上

問3:職種は次のうちどれですか？

1. 行政職(事務・技術)
2. 技能労務職
3. 専門職(福祉職)
4. 専門職(保育士)
5. 専門職(医療職)
6. 専門職(その他:)
7. 教員
8. 消防職
9. その他()

問4:職位は次のうちどれですか？

1. 部長級、課長級、課長代理級またはそれ以上

2. 係長級
3. 係員(技能労務職以外)
4. 技能統括・部門管理主任、作業長・副作業長
5. 業務主任
6. 係員(技能労務職)

問5:配偶者は現在、いますか？

1. いる
2. いない

問6:問5で「1. いる」と答えた人にお伺いします。配偶者の方は仕事をしていますか？

1. 仕事をしています
2. 仕事をしていない

問7:子どもはいますか？二人以上の子どもがいる場合は、下の子どもについて記入してください。

1. 未就学の子どもがいる
2. 小学校低学年（3年生）までの子どもがいる
3. 小学校4年生以上18歳までの子どもがいる
4. 19歳以上の子どもがいる（同居・別居を問わず）
5. 子どもはいない

【男女共同参画について】

問8:市民局では、本市みずからの女性の政策・方針決定過程への参画を拡大するため、審議会等委員への女性の登用促進を図り、平成27年度までに女性委員の占める割合が40%以上になることをめざしています。また、全職員が男女共同参画の視点をもって施策を遂行できるよう、研修教材や庁内情報誌「きらめき通信」を作成するとともに、「人権の視点からの情報発信の手引き」のなかに「女性に関する人権の視点からの情報発信のあり方」を記載するなど、職員に対して広く情報発信を行っています。

あなたは、上記のような取組み内容により、男女共同参画の重要性について理解することができましたか。

1. 理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できていない
4. 理解できていない
5. 取組みを知らない

【女性の活躍について】

問9:あなた自身、あるいは、あなたの身近にいる女性は総じて、仕事で活躍していると思いますか？最も近いものを1つ選んでください。

1. 活躍している
2. どちらかといえば活躍している
3. どちらかといえば活躍していない
4. 活躍していない

問10:大阪市男女共同参画基本計画において、国の目標に基づき 2020 年までに「指導的立場の女性の割合を 30%にする」を目標を掲げています。国をあげて、女性の活躍を促進していることについてどう思いますか？最も近いものを1つ選んでください。

1. 賛成である
2. どちらかといえば賛成である
3. どちらかといえば反対である
4. 反対である
5. わからない

(参考)

平成 25 年 10 月 1 日現在の状況(人事室調べ)をみると、

	職員総数	管理職(課長代理以上)数
女性(人)	5,649 人	271 人
全体(人)	21,683 人	2,070 人
女性比率	26.1%	13.1%

※教育長・交通局・水道局・校園・病院局職員、公益的法人・営利法人等派遣職員を除く
 これによると、職員総数に占める女性比率が 26.1%であるのに対し、管理職に占める女性比率は 13.1%となっています。

問11:上記のとおり、大阪市の課長代理級も含む課長級以上の管理職(以下、管理職という)の割合は13.1%となっています。女性職員の管理職の割合が少ない要因は何だと思われますか？ 次の中から3つまで選んでください。

1. 仕事と家庭生活(育児や介護など)の両立が難しい
2. 女性自身が管理職になりたくないなど女性職員のやる気や意識の問題
3. これまで女性管理職が少なくイメージできない
4. 女性管理職が少なく、目標となる存在がいない
5. 一般的に育児や介護が女性の役割とする固定観念、先入観などの古い考え
6. いままで、女性職員に対し管理職となることを前提とした人材育成をしてこなかった
7. 男性職員の方が組織に期待されている
8. 育児休業等取得により昇格が遅れる
9. 人事担当の女性職員登用への意識の欠如
10. 女性職員に対する職場や業務内容が限定的、またそれに伴う業務の経験不足
11. 一般的に就労の仕方が残業や長時間労働が前提になっている
12. 管理職の業務量、業務負担が大きすぎる
13. その他 ()

問12:あなたは、男性職員と女性職員では管理職への登用に差があると思われますか？

1. 男性職員の方が、能力や資質に比べ有利に登用されていると思う
2. 女性職員の方が、能力や資質に比べ有利に登用されていると思う
3. 差があるとは思わない
4. わからない

問13:今後、女性職員の管理職への登用について、優先的に取り組むべきことは何だと思われますか？ 次の中から3つまで選んでください。

1. 人事担当による能力・実績に基づいた人事配置、昇進管理、処遇の徹底
2. 中・長期の視点に立った人材育成（研修、多様な職務経験を通じた職域拡大）
3. 職場全体の休日出勤や時間外勤務の削減
4. 育児休業中等の代替要員の確保
5. 在宅勤務やフレックスなど勤務形態の多様化
6. 育児休業復帰後等の勤務所属・ポスト等への配慮
7. 育児・介護サービスの受給支援制度の創設
8. トップがリーダーシップを発揮して意識改革を図る
9. 女性職員の管理職への登用について、同僚・男性職員の理解を進めるための意識の啓発
10. 女性職員の管理職への登用について、女性職員の理解を進めるための意識の啓発
11. クォータ制(一定の比率で人数を割当てする制度)の導入
12. その他（ ）

問14:あなたは現在の職位より上位の職位につきたいと思われませんか？ 最も近いものを1つ選んでください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問15:問14で「3. どちらかといえばそう思わない」・「4. そう思わない」と答えた方にお尋ねします。そう思う理由は何ですか？ 最も近いものを1つ選んでください。

1. 自分や家族との時間を大切にしたい
2. 現在の職位が自分には合っている
3. 自分には管理職としての能力がない
4. 業務上の責任が重くなる
5. 仕事に対するやりがいや達成感、充実感が見いだせない
6. 業務の負担の割に給与面でメリットが少ない
7. 仕事と家庭生活との両立に影響がでる
8. その他（ ）

問16: 現在、管理職の方にお尋ねします。あなたは、管理職に就いてよかったですと思われるか？
最も近いものを1つ選んでください。

1. と思う
2. どちらかといえばと思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問17: 問16で「1. と思う」「2. どちらかといえばと思う」を選んだ方にお尋ねします。そう思われる理由は何ですか？ 最も近いものを1つ選んでください。

1. 仕事に対するやりがいが増えた
2. 人間的に成長した
3. 仕事の幅が広がり、能力が向上した
4. 人脈が広がった
5. 社会的信用が増した
6. 給与手当が増えた
7. その他 ()

【働きやすい職場環境づくり】

問18: あなたは次の制度があることを知っていますか？ いずれかに○をつけてください。

制度名	知っている	知らない
育児休業 (男女)		
育児時間休暇 (男女)		
子の看護休暇 (男女)		
育児職免 (注) (男女)		
育児を行う職員の深夜勤務及び超過勤務の制限 (男女)		
育児を行う職員の早出遅出勤務 (男女)		
配偶者分べん休暇 (男性のみ)		
育児参加休暇 (男性のみ)		
妊娠中の職員の通勤緩和職免 (女性のみ)		
妊娠中の職員の保健指導職免 (女性のみ)		
妊娠障害休暇 (女性のみ)		
妊産婦の就業制限 (女性のみ)		

(注) 育児職免は、平成 26 年 4 月に廃止されます。

() 内は取得できる性別を記載しています。

問19:問7で「1. 2. 子どもがいる」と答えた方にお尋ねします。次の制度の活用について、A～Dの中から最も近いと思われるものに○をつけてください。

制度名	A:活用した (している、するつもり)	B:活用したが、 希望する期間は取得できなかった	C:活用したかったが、できなかった	D:活用しなかった(しないつもり)
育児休業 (男女)				
育児時間休暇 (男女)				
子の看護休暇 (男女)				
育児職免(注) (男女)				
育児を行う職員の深夜勤務及び超過勤務の制限 (男女)				
育児を行う職員の早出遅出勤務 (男女)				
配偶者分べん休暇 (男性のみ)				
育児参加休暇 (男性のみ)				
妊娠中の職員の通勤緩和職免 (女性のみ)				
妊娠中の職員の保健指導職免 (女性のみ)				
妊娠障害休暇 (女性のみ)				
妊産婦の就業制限 (女性のみ)				

(注) 育児職免は、平成 26 年 4 月に廃止されます。

()内は回答の対象としている性別を記載しています。

問20:問19で「育児休業」、「配偶者分べん休暇」、「育児参加休暇」を「B:活用したが、希望する期間は活用できなかった」「C:活用しなかった」と答えた方にお尋ねします。その理由について、最もあてはまるものはどれですか。最も近いものを1つ選んでください。

制度名	理由
育児休業 (男女)	
配偶者分べん休暇 (男性のみ)	
育児参加休暇 (男性のみ)	

()内は回答の対象としている性別を記載しています。

(理由)

1. 育児は女性がすべきであり、男性が仕事をして家計を支えるべきと考えた (考えている)
2. 育児をしてくれる配偶者や親等がいるため、取得する必要がなかった。(必要がない)
3. 仕事と育児が十分に両立できると考えた (考えている)
4. 職場に迷惑をかけると思った (思う)
5. 体調や健康面で、特に取得する必要がなかった (必要がない)
6. 復帰後の職場や仕事の変化等に対応できなくなると思った (思っている)
7. 職場が制度を取得しにくい雰囲気であった (である)
8. 育児よりも仕事のほうがやりがいを感じていた (感じている)
9. 減収など経済的な理由で
10. 配偶者や家族から「活用すること」に反対があった
11. 制度がなかった
12. その他 ()

問21:問19のいずれかの項目で「A:活用した」「B:活用したが希望する期間は取得できなかった」と答えた方にお尋ねします。職場に復帰する時に必要だと思うことは何ですか？ 次の中から3つまで選んでください。

1. 復帰を受け入れる職場の雰囲気、職場の理解
2. 保育所・園への入所時のならし保育に対応した勤務プログラム
3. 職場内に相談できる先輩 (人)
4. 配偶者や家族の理解や協力
5. 育児休業中に職場の情報、環境などの変化(新しいシステム導入や制度・ルールの変更)などの情報提供
6. その他 ()

問22:あなたの介護経験についてお聞きします。(あなた自身のご両親、配偶者のご両親についてお答えください)最も近いものを1つ選んでください。

1. 介護中である
2. 介護を経験した
3. 介護の経験がない
4. その他 ()

問23:全員にお尋ねします。次の制度があることを知っていますか？いずれかに○をつけてください。

制度名	知っている	知らない
短期介護休暇		
介護休暇		
介護を行う職員の深夜勤務及び超過勤務の制限		
介護を行う職員の早出遅出勤務		

問24:問22で「1. 介護中である」・「2. 介護を経験した」と答えた方にお尋ねします。次の制度の活用についてお答えください。A～Cのなかから最も近いと思われるものに○をつけてください。

	A:活用した (している、するつもり)	B:活用したが、希望する期間は取得できなかった	C:活用したが、できなかった	D:活用しなかった(しないつもり)
短期介護休暇				
介護休暇				
介護を行う職員の深夜勤務及び超過勤務の制限				
介護を行う職員の早出遅出勤務				

(別紙)

問27:その他女性の活躍促進に関することをご意見がある場合はお書きください。

